

sapporo education and culture hall news

Raku

もつとつながる もつとひろがる 和の心



〔特集〕 KYOBUN 2020

もつとつながるもつとひろがる和の心

新年度を迎える。新型コロナウイルスの世界的な流行による社会的、経済的影響も懸念されますが、そんな時こそ芸術や人とのつながりが發揮する力を信じて、札幌市教育文化会館でも取り組みを進めていきたいと思います。伝統芸能、演劇、ダンス、ワークショップ(WS)を軸に、今年度の事業を紹介します。

教文のここに注目! 巷で話題の四つの取り組み

近年教文が力を入れて進めてきた取り組みの中から、ホットなトピックを紹介。
今後も面白い取り組みがここから派生していきそうな予感大の、注目ポイントです。

和文化プロジェクト

「教文伝統芸能シリーズ」と連動したプロジェクト。『樂』の連載「教文和文化巡り」等、和に関連するヒト、モノ、コトを緩やかにつなげ、札幌ならではの和文化の楽しみを生み出すことを目指します。今号の「教文和文化巡り」で紹介するお香など、古くから日本人の生活に溶け込んできた和のアイテムを暮らしに取り入れることで、古典芸能で描かれる世界とのつながりを日常的に感じてもらいたいという願いも込めています。『樂』50号の和文化プロジェクト特集もぜひご覧ください。



情報誌のアーカイブ化

これまで発行した教文の情報誌『樂』と『act』の全号を、ホームページで公開。公演に足を運んだり発行号を手にして興味を持ってくれた方が、さらにアンテナを広げていけるよう、「伝統芸能」「演劇」などトピックごとの記事検索も可能です。教文情報誌は、単なるフリーペーパーとしてではなく「情報資産」として捉えて制作しており、配布先から「永久保存版にします」というありがたい声をいただくことも。読み物として長く愛される情報誌を、今後も発行していくと考えています。

www.kyobun.org/
スマホからはこちら▶

ダンスアーカイブの発行

2019年に10周年を迎えた教文コミュニティダンス事業。その10年の歩みを振り返る冊子が4月に発行されました。全ての起点となった「リズ・ラン ダンスエクスチェンジ合同ダンス公演」(2009年3月)からの試行錯誤と発展の軌跡、次の10年を考えための対談など、充実の内容です。年齢、性別、障がいの有無に関わらず、あらゆる人に開かれたコミュニティダンスを通じて、社会と芸術の関わりを探る必読の一冊。



能楽への新しいアプローチ

2019年の「能楽なう」イベントとして札幌文化芸術交流センターSCARTSで開催された「開かれる幽玄の世界~能楽展示~」や、公演当日の「能面×花」コラボレーション展示、そしてそのコラボレーションをact紙面上でさらに発展させた能面作家・外沢照章さんとフラワーアーティスト・YANASEさんによる能面と花の競演「夢幻-能の宇宙」(act32・33合併号)など、能の世界観を斬新な見せ方で紹介し、大きな話題に。これまでと違う客層にリーチするなど、手応えを感じられる取り組みとなりました。



SCARTSでの能楽展示(写真左)では、会場での雰囲気に合わせて、映像を多用したスタイリッシュな見せ方を展開。能面と花を組み合わせた作品(写真右)は、3種類。これらはポストカードやクリアファイルとしてグッズ展開も。

札幌市教育文化会館(以下、教文)は、「人と芸術と社会をつなぐ」をテーマに、独自の取り組みとしてさまざまな主催事業を開催しています。札幌で触れる機会の少ない能楽、文楽、歌舞伎など伝統芸能を紹介する「教文伝統芸能シリーズ」は、初めての人でも演目を存分に楽しめる見所解説や、タブレット端末による外国語対応と合わせて、2018年からスタートさせた「和文化プロジェクト」による野点傘スペースの設置やオリジナル暖簾をはじめとしたロビーの空間演出をはじめとしたロビーの空間演出が、今年で13年目を迎えます。台本審査で選ばれた団体が20分間の短編作品を発表し、審査員と観客が投票によって勝敗を決める「短編演劇祭」は、全国的にも認知度が高い古株の演劇祭になりました。

豪華な審査員をゲストに迎え、道内外からの出演団体が競い合う様子を、たくさんの観客の方々に応援していただきて盛り上がる交流の場となっています。昨年はブレイベントとして入場無料の前夜祭も初開催。今年度もフェスティバルを盛り上げる仕掛けを考えていますので、どうぞお楽しみに。ダンス事業は、2019年に10周年を迎えた教文コミュニティダンス事

業のアーカイブ冊子も完成し、次の10年に向けて大きく変化しようとしているところです。これまでの蓄積を生かしながら、幅広い年齢層を対象としたダンスWSをメルが今年で13年目を迎えます。台本審査で選ばれた団体が20分間の短編作品を発表し、審査員と観客が投票によって勝敗を決める「短編演劇祭」は、全国的にも認知度が高い古株の演劇祭になりました。豪華な審査員をゲストに迎え、道内外からの出演団体が競い合う様子を、たくさんの観客の方々に応援していただきて盛り上がる交流の場となっています。昨年はブレイベントとして入場無料の前夜祭も初開催。今年度もフェスティバルを盛り上げる仕掛けを考えていますので、どうぞお楽しみに。ダンス事業は、2019年に10周年を迎えた教文コミュニティダンス事

業のアーカイブ冊子も完成し、次の10年に向けて大きく変化しようとしているところです。これまでの蓄積を生かしながら、幅

岩杉 夏さん(札幌FEDE)から指名

[プロフィール]

深浦 佑太

Yuta Fukaura

舞台俳優として精力的に活動。役者賞や主演作の受賞、道外・海外公演も成功を収める。スマートフォン向けゲームのシナリオライター業と並行し他劇団へ脚本提供も行う。総合学園ヒューマンアカデミー札幌校にて演技講師を務める。

[執筆実績等]

yutafukaura12.strikingly.com



[次回出演情報]

クラク芸術堂
Masterworks #04

『ダブリンの鐘つきカビ人間』

2020年5月21日(木)～5月24日(日)

生活支援型文化施設コンカリニヨ
(札幌市西区八軒1条西1丁目ザ・タワープレイス1F)

撮影協力: 35stock

——書くことならではの面白さとは?

一つは自分の想像を形にできること。空想の中で遊ぶ楽しさを形にできる、よりいいなと思います。二つ目は相手の要望をクリアした上で、さらに附加值として提案したものがパチッとはまつたときの喜び: 毎度出来ているのは別として(笑)。どれだけ要望以上の中の目指していけるかがチャレンジです。三つ目は、脚本やシナリオが最終的に公演やゲームになつたとき。毎回自分の想像とは必ず違つたものになるのが面白いです。

——提供した脚本が想像と異なるものになつた最たる作品は?

札幌FEDE『FLASH』

俳優、脚本家、ゲームシナリオライター、演技講師として多忙な日々を送る深浦佑太さん。脚本／シナリオ執筆と演技、両方の視点から見えるものは?

——書くことと演じることどちらかを選べと言われたら、どうしますか?

どちらにも全然違う面白さがあるので選べません(笑)。ただ、似ているところもあって。脚本は依頼を頂いて、要望に合わせて打ち合わせをしながら書いていく役者のときも台本を咀嚼して演技を提案して、更に演出家の要望に応える演技を摸索することの繰り返しなので、そういう意味では同じだと思います。

——今追求していることは?

ゲームのシナリオは、今どんな方向性の物語が望まれている時流なのか捉えが必要があるので、流行りものにも関心を向けるようにしています。

あとは脚本もシナリオも、愛着を持つてもらえるキャラクターを描くこと。役者としては、脚本におけるキャラクターの役割を全うすることと、そのキャラクターが「人間としてちゃんと生きている」ことを両立させたい。潜在的にある役割を担いつつ、観客にはその人物像だけが見えるよう演じることができたら、人間を覗いて意味合いが出るとと思う。脚本でも演技の上でも、観客を物語世界に沈められるような表現方法を今後も模索していく

KYOBUN CHILDREN'S THEATER WORKSHOP

公募により集まつた小・中学生の参加者が、地元劇団の演出家や役者と共に一つの作品をつくりあげ発表公演を行う「子ども演劇ワークショップ(W.S.)」。4年目(※)となる2019年はELEVEN NINESの納谷真大さんを講師に迎え、22人の子どもたちが挑戦しました。「現代アメリカ文学の源」と言われる「ハックルベリー・フィンの冒険」を劇として演じる設定の本作。

谷さんは議論から引き出された活発な意見交換には、演劇の子どもたちの生々しい言葉を生かして作っていきました」と納

谷さんは話します。子どもたちのWS体験も生かされているそ

うです。「黒人奴隸って何?」「それって、本当に子どもがやる劇

なの?」「そういう風に変えるなら、ハックルベリー・フィンの冒

険をやる意味がない気がする」。

【日時】2020年1月9日(木)
【会場】札幌市教育文化会館 小ホール
○原作・マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』
○脚色・納谷真大・後藤七瀬(ELEVEN NINES)

【子ども演劇ワークショップ発表公演】

「ハックルベリー・フィン みたくなりたくて」

事業報告





教文和文化巡り

第4回 | 香老舗 松栄堂 札幌店

伝統芸能とともに日本の文化の魅力を気軽に体感してもらう「和文化プロジェクト」。
連載第4回目は、香老舗 松栄堂 札幌店をご紹介します。

Japan Culture Tour



香老舗
松栄堂 札幌店
札幌市中央区南8条西12丁目3-6
tel.011-561-2307
営業時間／10:00～18:00
(日曜・祝日)
<https://www.shoyeido.co.jp/>

京都で三百年ほど前に創業した香老舗松栄堂の、直営店である札幌店。宗教用の薰香をはじめ、茶の湯の香、お座敷の香、手軽なインセンスや匂い袋など「香百般」を扱うお香専門店です。「寒い時期には香木の凜とした香り、暑い時期には清涼感のある香り」というように、お店の前でお香も月毎に替えて、四季折々の香りの楽しみ方を提案しています」と、札幌店店長。沈香や白檀などの香木に加え、お香の原料として使われる天然香料は数十種類あります。香り文化を感じさせてくれます。伝統的な和の香りのほか、フレッシュな洋風の香りも豊富にあるのでしょうか。お店で実際に焚くことでも、スタッフの方が丁寧に説明してくれる商品もあります。簡易香立が付いている商品もあるので、買ってすぐに使えるところも嬉しいポイント。火を使わない常温で香るタイプのお香もオススメです。玄関で焚いて香りをお出迎えを楽しんだり、匂い袋を衣装ケースに入れてほのかな香りを纏つたりと、ぜひ出会ってください。

日本
の香り文化を
体感できるお香専門店

2020年度

教文伝統芸能シリーズ

札幌市教育文化会館では能舞台や歌舞伎の花道などを活かし、次世代へ向けて伝統芸能を継承するプログラムに精力的に取り組んでいます。2020年度も様々な伝統芸能公演を予定しております。是非、足をお運びください。

文楽のいろは

～人間国宝・吉田和生がひもとく～

人間国宝・吉田和生を迎え、文楽人形を中心とした三業の解説と母子の悲しい別れを描いた『恋女房染分手綱』重の井子別れの段を上演します。

公演中止



写真：三宅辰介

小・中学生のための 能楽入門ワークショップ

能楽師の指導のもと能独特の発声である謡いや、仕舞と呼ばれる動きや型を体験します。

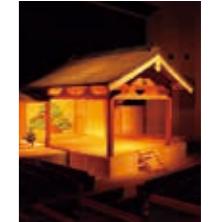


[日 時] 7月28日(火)、7月29日(水)

[講 師] 小倉健太郎(シテ方宝生流能楽師)
[対 象] 小学生3年生～中学3年生まで

能楽なう

能は、舞踊と音楽、演劇が一体となった総合芸術です。今年は宝生流、観世流の能楽師を招き、上演を行います。二流派の能をご堪能下さい。



2020年度 教文ホールメイト会員募集中

令和2年度(有効期限:翌年3月)の
教文ホールメイト会員を募集しています。



教文大使
コネ・クートくん
designed by ロケットデザイン

【おトクな特典はこちら!】

- 対象事業の先行予約や割引販売
- 館内及び近隣の提携店でのサービス特典
- 会館からの最新情報を定期的に手元にお届けなど

年 会 費 2,000円(10月以降入会の場合は1,000円)

申込 方 法 2階窓口へご来館、もしくは下記までお電話ください。

問 合 セ / 札幌市教育文化会館 事業課 Tel.011-271-5822



人形浄瑠璃文楽

太夫、三味線、人形遣いが三位一体となり、喜怒哀樂の心情を表現します。五穀豊穣を祈る「二人三番叟」、嫉妬による狂乱のさまが見どころの「摺州合邦辻」のほか、文楽の世界観を堪能できる演目揃いです。

[日 時] 10月5日(月) 昼の部 13:30開演(13:00開場)
夜の部 18:30開演(18:00開場)

[会 場] 大ホール [出 演] 人形浄瑠璃文楽座技芸員
[演 目] 昼の部「二人三番叟」、「摺州合邦辻」合邦住家の段
夜の部「本朝廿四孝」十種香の段／奥庭狐火の段、「釣女」